


研究者の素顔や生き方の第2弾、いかがでしたか？
リボンで繋がる先輩たちのメッセージから
研究者それぞれの考えや想いが
伝わってきたのではと思います。
この青いリボンが、あなたの未来に繋がることを願って…

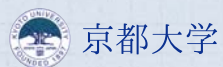
未来に
繋がる 
青いリボンの
エトセトラ

京都大学男女共同参画推進センター

Vol.2

——— 京都大学を目指すあなたへ ———

研究者からの言葉
それは未来に繋がるメッセージ



男女共同参画推進本部（男女共同参画推進センター）／学術研究支援室



好きなものを土台にして
技術や考えを繋ぐことが大切

現在の学術研究は、さまざまな分野で個々には深く掘り下げられているものの、それぞれがバラバラに孤立しています。実験や観察、調査を通して1つのことを追求するのは重要ですが、今後それらを繋ぐことも大切です。

例えば、今や人間のゲノム（全遺伝子情報）は簡単に読めるようになりましたが、ゲノムを解読する人、そのデータを解析する人、病気の原因を臨床の立場で研究する人が一緒に協力して初めて、病気と遺伝子の関係が明らかになります。1つの分野だけを見るのではなく、いろいろな技術や考え方を繋ぎ、研究の視野を広げていくべき時代になりました。

みなさんは、大学に入ったらず、おもしろいと感じるもの、興味を持って続けられるものを自分で見つけてください。それを足がかりとして、そこから繋がる全体像を俯瞰できるようになることが大切です。

さまざまな学問分野で

日々研究を続ける京都大学の研究者たち。

今回もその素顔と生き方を紹介します。

現代を生きる彼女たちからのメッセージは

あなたの未来に繋がっているかもしれません。

たくさん読んでほしいから...



Girls, be ambitious

稲葉 カヨ

副学長
男女共同参画・国際・広報担当理事
生命科学推進センター長
生命科学研究所教授

奈良女子大学理学部卒業。京都大学大学院理学研究科博士課程修了。京都大学理学部助教授（女性初）、同大学院理学研究科助教授を経て、生命科学研究所教授に就任。生命科学研究所長（女性初）を務めた。米国ロックフェラー大学連携教授を併任。免疫システムにおける樹状細胞の主要な役割の解明に貢献し、2014年「ロレアル・ユネスコ女性科学賞」を受賞。



医学研究科 教授
柳田 素子

p. 3



人文科学研究所 助教
宮 紀子

p. 4



白眉センター/
数理解析研究所 特定助教
鈴木 咲衣

p. 5



理学研究科 助教
朴 昭映

p. 6



教育学研究科 教授
明和 政子

p. 7



経済学研究科 教授
渡辺 純子

p. 8



アジア・アフリカ地域研究研究科 助教
近藤 史

p. 11



法学研究科 准教授
木村 敦子

p. 12



農学研究科 講師
山根 久代

p. 13



工学研究科 助教
宮川 愛由

p. 14



医学研究科 教授 木原 正博
医学研究科 准教授 木原 雅子

p. 15



医学研究科 教授 篠原 隆司
医学研究科 助教 篠原 美都

p. 17



研究女子特別座談会

p. 19

研究テーマ:腎臓病学。内因性再生力の賦活化を目指す



実験室は私のホーム。
学生やスタッフは家族のよう。
みんなからパワーをもらえる



京都大学医学部卒業
↓
大学院医学研究科博士(医学)取得
↓
科学技術振興機構
ERATO 柳沢オーファン受容体
プロジェクト 研究員
↓
京都大学 21世紀COE 助教授
↓
生命科学キャリアパスユニット 講師
↓
白眉センター 特定准教授
↓
大学院医学研究科 腎臓内科学講座 教授

医学研究科 教授
柳田 素子

研究対象を広げる
きっかけになった『元典章』



研究テーマ:13~15世紀のモンゴル時代の政治と文化



京都大学文学部卒業
↓
大学院文学研究科修士・博士後期課程
↓
南京大学留学
↓
京都大学人文科学研究所 助教

人文科学研究所 助教
宮 紀子



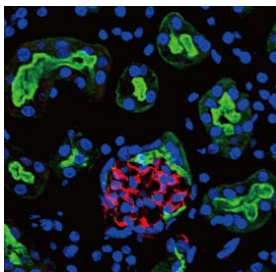
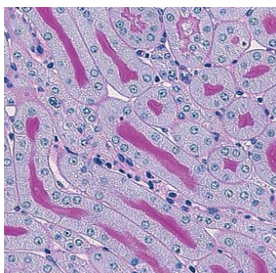
自分が一番知りたいことに どれだけまっすぐ迫れるか

腎臓の細胞に備わる再生力を見極め、それを引き出す治療法の研究に取り組んでいます。腎臓病は病恹期間が10年以上もあり、長期間の服薬や、つらい食事制限、それに伴う生活、進路の制約が生じることがあります。そういった困難を可能な限り少なくしたいというのが、私たちの願いです。

研究における私のポリシーは、「知りたいという気持ちを大事にする」です。「今これが有名だから」「この分野が流行しているから」という理由で研究に取り組むのではなく、「どうしても知りたい」という情熱が最優先。そうした根っこがなければ、研究がうまくいかないときに自分自身を支えられません。

私を知りたいのは、腎臓にどれだけ内因性再生力があり、それが何によって邪魔されているのか、また、再生力が不十分なら、どうすれば高められるのかということ。自分が一番知りたいことに、どれだけまっすぐ迫っていけるかが大事です。

医療の現場では、死に直面したり、つらい場面もあります。でも、実験室で学生やスタッフの顔を見るとホッとしたり、元気をもらえます。



将来的には、腎臓に関する知識をもっと積み上げて、いろいろな切り口から、腎臓病の治療や予防について、広い視野で理解できるようになればと思う。



モンゴル時代の出版文化についての著書も多数。研究資料は、鎌倉・室町時代に僧侶が中国から持ち帰った漢籍や、彼らが弟子や貴族に講義するために作った抄物と呼ばれる注釈書、ペルシア語の典籍、文書。

探していた原典を見つけた瞬間、 鳥肌が立つほど興奮しました

モンゴル時代に編纂された多言語の書物を通して、イベリア半島から日本に至る、ユーラシア東西の文化交流の実態を研究しています。もともとは、同時期の、中国の口語で書かれた文学作品を研究していました。博士後期1年次、政治や裁判に関する記録を収めた『元典章(大元聖政国朝典章)』を読んだことがきっかけで、時代状況を多角的に、より詳細に知りたくなり、今の研究を始めました。

中国の南京大学へ留学していた時は、全国各地の図書館の貴重書が大型叢書として出版されたり、外国人も自由に閲覧できる環境になっておかげで、それまで誰も見られなかった文献にも接することができました。ペルシア語に翻訳された中国史の原典を探していたとき、北京大学図書館の目録に気になる題名を見つけ、その本を見せてもらったら予想が的中していて、すごく興奮しました。その感覚をもう一度味わいたくて、今まで研究を続けてきたような感じです。

限られた研究人生だからこそ、鳥瞰図のように全体を見渡して、新しい研究テーマを選ぶようにしています。そして自分の研究の実寸、意義を見失わず、謙虚に取り組むよう心がけています。

研究テーマ：幾何学。特に「結び目」の構造



習い事の新体操で使ったボールやリボン。研究には、体力や身体感覚も必要



白眉センター／
数理解析研究所
特定助教

鈴木 咲衣

名古屋大学理学部卒業
↓
京都大学大学院理学研究科修士課程
↓
大学院理学研究科博士課程
(日本学術振興会 特別研究員 DC)
↓
日本学術振興会 特別研究員 PD
(九州大学)
↓
京都大学白眉センター
特定助教 (数理解析研究所)

学問は冒険。 自分を知っている人が強い

学部4年生のとき、京都大学主催のセミナーに参加して、数学への愛に満ちた、オリジナリティあふれる人たちに会いました。「数学を介してこんなに熱くコミュニケーションが取れるんだ」と感動し、今もそのときの気持ちのまま研究活動を続けています。数学の研究は自由度が高く、常に自分で舵を取らなければいけません。何が好きで、何をやっているときに楽しいと感じるか、自分の興味をよく認識している人が最後には強いと実感しています。

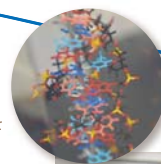
私は数学の研究の、どの過程も好きです。文献を読んで勉強する、ひとり机に向かって計算をする、発見する、人と議論をする、推敲する、理論を詰めて論文にする、推敲する、講演をする、推敲する、くり返し、くり返し。そのすべてに意味があって、どこが欠けてもバランスが崩れます。

数学の研究結果は人類の知的財産。自分の見出した結果がみんなの財産になるよう、伝えて共有していく活動も大切だと思っています。



数学者は数学だけを研究していればいいのではなく、社会の中での自分の役割を理解することも必要。自分がどう立ち位置にあって、何ができるかを常に考えなければいけないと思っている。

DNAの二重らせん。自然が作ったすばらしい構造体を化学に生かしたい



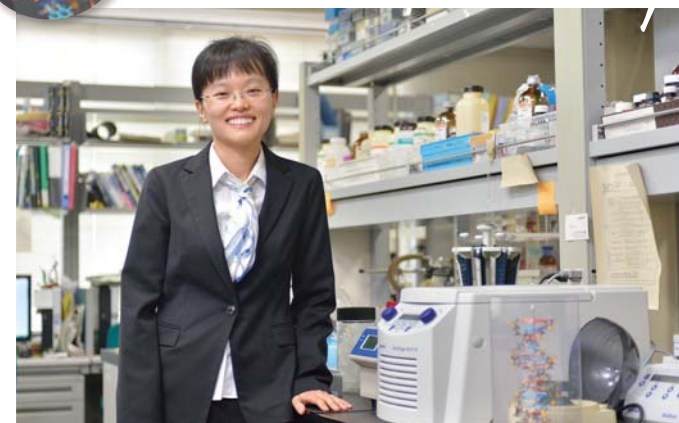
研究テーマ：DNA触媒を用いた不斉合成法の開発



韓国 梨花女子大学卒業
↓
韓国科学技術院 (KAIST) 修士課程
↓
京都大学大学院理学研究科博士課程
↓
大学院理学研究科 研究員
↓
日本学術振興会
外国人特別研究員 (京都大学)
↓
理学研究科 助教

理学研究科 助教

朴 昭映

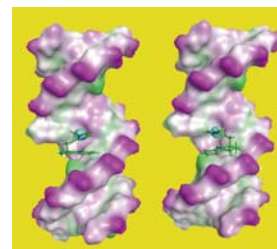


研究者になることは、人生を豊かに、 世の中を豊かにすること

韓国で修士課程を終えた後、研究員として勤めた企業での研究に満足できず、京都大学の博士課程に進学。もともと有機合成化学を勉強していましたが、生物学にも興味があったので、両者の境界線で生まれた学問である、DNA触媒に注目しました。

今まで何度も研究をあきらめかけた時期がありましたが、その度にすばらしい先生と出会えて、成長することができました。修士課程の途中で大学をやめようとしたとき、「あきらめずに続けてほしい。初心を忘れてはいけない」と励ましてくれた指導教員の先生。日本語がまったく話せず苦労していた博士課程のとき、同情するのではなく、逆に厳しく指導してくださった先生。おかげで日本語の勉強を続けることができて、話せるようになりました。現在の研究室でも、新しい研究分野を学ぶときには初心者のように真摯な姿勢で臨む教授の姿に接して、私ももっと頑張らなければと、あらためて思っています。

研究者は情報を取り入れるだけでなく、自分で勉強して、その意味や、それが与える影響を理解することが大事。研究者になることは、自分の人生を豊かに、そして世の中を豊かにすると思います。



DNAは生物の遺伝情報の保存・伝達機能を担うだけでなく、環境耐性にも優れている。その一部分の構造を自分のアイデアで少し改変するだけで、不斉合成反応の触媒機能を持たせられる可能性がある。

研究テーマ:発達科学。ヒトとヒト以外の霊長類の認知・行動発達を比較



出産・子育てに関しては、チンパンジーのアイが先輩



教育学研究科 教授

明和 政子

京都大学教育学部卒業
↓
大学院教育学研究科修士・博士後期課程
↓
霊長類研究所 博士研究員
↓
大学院文学研究科 博士研究員
↓
滋賀県立大学人間文化学部 専任講師
↓
京都大学大学院教育学研究科 准教授
↓
大学院教育学研究科 教授

経済学に興味を持ったきっかけは、「資本論研究会」というサークルに入ったこと

出典: Wikipedia



研究テーマ:近現代経済史。戦後日本の衰退産業における雇用の調整



北海道大学経済学部卒業
↓
同大学院経済学研究科修士課程
↓
東京大学 助手
↓
静岡大学 助教授
↓
電気通信大学 助教授
↓
京都大学大学院経済学研究科 准教授
↓
大学院経済学研究科 教授

経済学研究科 教授

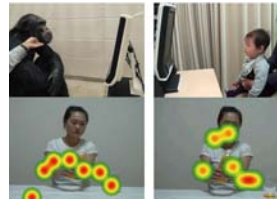
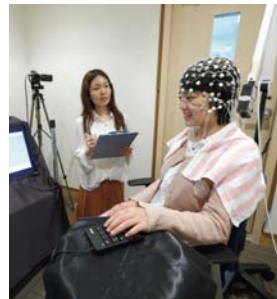
渡辺 純子

あなたを待っている世界がある。 ぜひ、飛び込んでほしいな

「人間とは何か」を生物学的に勉強したくて霊長類研究所を訪問し、チンパンジーのアイに会った瞬間、ピビッと運命を感じました。今は「人間が成長し、次世代に命をつないでいく過程で起こる問題に対して、私たちアカデミアの人間には何が出来るか」を強く意識して研究に取り組んでいます。人間を含む生き物の心に向き合う研究者は、目的や哲学をしっかり持ち、研究対象に共感することが不可欠です。

チンパンジーやヒトの子どもの行動や脳、心の働きなどを、大人の視点や基準で捉えることは危険。彼らには彼らの生きる世界がある。思い込みで実験結果を解釈しないことも大切です。科学者として冷静に検証し、解釈に不安があれば別の角度から実験、検証する。地道な作業の積み重ねです。

若い人たちは「何も考えずに飛び込んでみようよ」と言いたいですね。就職や家庭、育児など先のことで思い悩まず、まずやってみる。ひたむきに前へ進もうとしている人には、必ずサポーターがついてきます。発達科学は若い学問分野なので、まずは京都大学から世界へ、ユニークな視点での成果を発信していきたいと考えています。



赤ちゃんの行動や脳の発達研究で得られた基礎的知見を、発達リスクの早期発見、早期支援に生かしたい。親子がともに発達する教育、支援システムを開発し、社会実装するのが夢。



経済史のおもしろさは、資料を繋ぎ合わせて、その意味や論理を自分なりに発見できたときに実感できる。私の研究テーマは現実社会と直結させづらい面もあるけれど、何らかの形で社会の改善に繋がってほしい。

社会を理解し改善するために、 社会科学は不可欠

大学院で研究テーマを決めるとき、当時流行していたのは戦時経済で、中でも鉄鋼業や軍需産業に関する研究が進んでいました。ですが私はその裏側の非軍需産業である繊維産業に興味をわきました。その延長で、さまざまな産業が衰退していくときに、雇用の問題やリストラをどのように調整していくかという研究を始めました。

研究に必要なのは、その分野が好きで、何かにこだわりを持つことだと思います。もともと私は、人と人、人と社会の関係性に興味があって、社会を理解したい、そして、それによって社会をより良くしたいというこだわりがあります。

近年、医学や自然科学が急進する一方で、社会科学はあまり進歩していないように見えるかもしれません。けれども、人は社会の中で生活していて、労働が生活に与える影響は少なくありません。ですから社会科学も不可欠な学問だと思っています。依然として世の中には、さまざまな問題や暗い面もありますが、そこから目をそらすのではなく、むしろ問題発見の起点として直視し、解決していこうという若い人たちが増えてほしいと願っています。

研究者たちの キーアイテム

研究の合間にほっと一息つけたり、
気分転換になったり、
心のよりどころであったり…。
新しい発想はこんなところから
生まれるのかもしれない。



柳田 素子
秘書さんが選んでくれた、
おしゃれなパソコンバッグが
お気に入り



近藤 史
お気に入りのコーヒーマル。
豆はタンザニアのキリマンジャロ産



宮川 愛由
デスク脇に置いた
ミニ観葉植物にほっこり

Key

Items



山根 久代
藤沢周平の時代小説が好きで、
アメリカ留学中にもよく読んで



木村 敦子
チョコレートや
羊羹が大好き。
研究の合間の息抜きに



明和 政子
ピアノを出勤前に弾くことも。
娘と一緒に楽しめる
共通の趣味



鈴木 咲衣
中学生のときに神社で拾った
愛猫テラ。今も実家で元気になっている



渡辺 純子
腕時計や文房具は
実はキャラクターものが多い



研究テーマ：タンザニアの持続可能な環境利用と食料の安定供給、経済発展の両立

初めてタンザニアに行ったとき
まだ言葉がおぼつかなくて
最初に子どもと仲良くなった



研究テーマ：家族法。特に「法律上の親子関係」

法律や家族の考え方に
興味を持ったきっかけは
臓器提供意思表示カードだった



アジア・アフリカ
地域研究研究科 助教

近藤 史

東京農業大学農学部卒業
↓
京都大学大学院
アジア・アフリカ地域研究研究科
一貫制博士課程
↓
神戸大学大学院農学研究科
地域連携研究員
↓
京都大学大学院
アジア・アフリカ地域研究研究科 助教

京都大学法学部卒業
↓
大学院法学研究科法書養成専攻
(法科大学院)
専門職学位課程
↓
法務博士(専門職)取得
↓
法学研究科 助教
↓
法学研究科 准教授

法学研究科 准教授
木村 敦子



アフリカのおもしろさ、 変化し続ける今の姿を伝えたい

アフリカの人たちがどのように農業を営んでいるかを実際に見て農村の発展を支援したいと思い、京都大学のアジア・アフリカ地域研究研究科を選びました。初めてタンザニアに行ったのは大学院1年生のとき。1年間滞在し、修士号取得後に再訪。植林しながら作物を育てる循環型の焼畑農業について調べました。イギリス植民地時代に工業原料用に導入された木の特性を見極めて、今は焼畑農業に利用するなど、現地の人たちのアレンジ力に感心しました。

アフリカの人たちは、時間の流れや人間関係にとってもゆとりを持っています。お互いに助け合い、タイミングが少しずれても上手に調整していく。いろんなことに「遊び」があって、その「遊び」の部分が社会全体をうまく機能させているのに驚きました。

現地に行くまで知らなかった、ステレオタイプではない実際のアフリカの姿を日本に紹介したくて、アフリック・アフリカというNPO活動も始めています。ただ、アフリカ自体が急速な勢いで変化していますので、私も、同時代を生きる現地の人と常に対話しながらでないと、今のアフリカを伝えられないと感じています。



1回目の滞在時は、谷底の湿地地を利用して乾季も作物を育てている畑を研究。農産物の販売価格や家計なども調査した。お金のことなど立ち入った話にも答えてもらうには、人間関係が重要。



学部4年生のときのゼミの先生は、あらゆる学説を調べて細かな違いを分析。民法だけでなく法哲学、経済学、心理学など、社会科学の観点から法律を見る。先生の研究姿勢を研究のお手本にしている。

知りたいことが、どんどん増えて 広がっていきます

高校で臓器提供意思表示カードが配られたとき、臓器提供について家族で話し合ったことがきっかけで、生命倫理や家族に関する法律に興味を持ちました。初めは厚生労働省で働きたくて法学部に進学したのですが、就職活動前の官庁説明会で、「官僚は立法に携わることはできるが、疑問点や解決したい点を積極的に変えていくなら研究者という道もある」と聞き、研究の道へ進みました。

法的な親子関係の構成や制度について、ドイツの法律と比較して研究しています。例えば同じような制度でも、日本とドイツでは実際の運用の仕方が違うのなぜか。それを理解するには、家族形態や宗教、社会の考え方の違いを調べる必要があります。1つの法律を起点に、気になるもの、知りたいことがどんどん増えて、広がっています。

「苦しい」という河合隼雄先生の言葉が座右の銘。苦しい研究生活の中で、何かを知って楽しいと感じたり、何かを見つけて「もっと研究できる!」とワクワクできる気持ちで続けたい。その中で、社会の問題が少しでも解決できる法律や、それに繋がる考え方が提示ができればいいと思います。

研究テーマ:果樹園芸学。ウメなど落葉果樹類の休眠現象の機構解明



農学研究科 講師
山根 久代

京都大学農学部卒業
↓
大学院農学研究科修士課程
↓
大学院農学研究科博士後期課程
(日本学術振興会 特別研究員 DC)
↓
大学院農学研究科 助手
↓
日本学術振興会 海外特別研究員
(コネル大学 植物学部)
↓
京都大学大学院農学研究科 講師



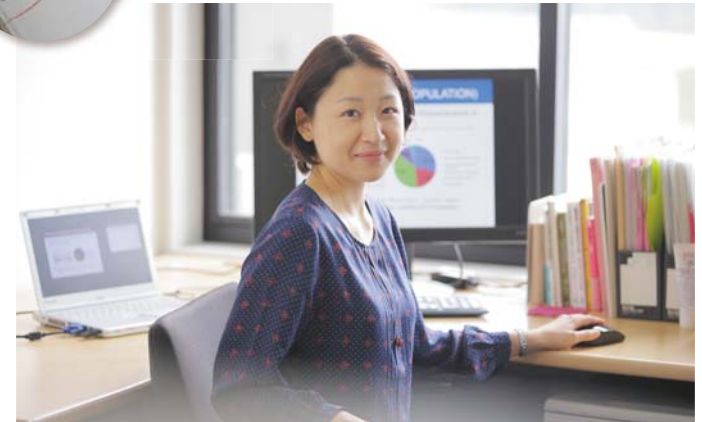
主な研究テーマは、果樹の開花・結実のメカニズムの解明。果実の大きさを決める仕組みや、受粉の仕組みも研究している。所属する研究室が管理しているカキ園は、大学として全国一の広さと種類を誇る。

「社会的ジレンマの処方箋」(藤井聡 著)を読んで
「こんな研究分野があるんだ」と驚いた



金沢大学工学部卒業
↓
東京工業大学大学院工学研究科修士課程
↓
一般社団法人システム科学研究所 研究員
↓
京都大学より博士(工学)取得
↓
京都大学大学院工学研究科 助教

工学研究科 助教
宮川 愛由



研究テーマ:社会的ジレンマ。とくにモビリティ・マネジメント

さんざん落ち込んだ後に、 「やっぱり知りたい」と思えてくる

不可能を可能にする技術を果樹栽培の分野で見つけたいという目標はあるけれど、なかなか自然は答えを教えてくれず、わからないことだらけ。挫折しそうになることも多々あります。でも、さんざん落ち込んだ後に、やっぱり知りたいなあと思えてくるから、研究し続けられるのだと思います。研究には、知りたいという熱い気持ちと、楽しいと感じる心を持ち続けることが必要です。

研究のおもしろさを教えてくれたのは、学部生のときの指導教員の先生。目標となる存在でもあり影響を受けています。また、有名な新品種をたくさん創出された方など、この研究室からすばらしい人材が輩出されています。私の研究の目的も、何か新しい栽培技術や品種を生み出すことなので、結果をしっかりとして出している先生方を尊敬しています。

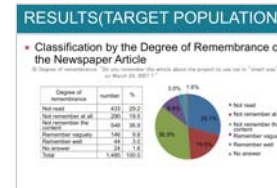
研究室の卒業生の中には、国や地方の果樹試験場などに就職し、農家への果樹の育種や栽培の指導に携わる人もいます。農家や消費者のためになる技術や品種の開発はもちろん、学生の指導を通じて人材の育成にも力を入れています。

仮説が実証されたとき、 やりがいや手応えを感じます



交通計画を学んでいた学部4年生のとき、工学研究科 藤井聡先生の論文を読んで「社会的ジレンマ」の研究に興味を持ち、先生の研究室に進学。修士課程修了後、研究所在籍中に、先生の勧めもあって博士号を取得し、京都大学の助教になりました。「社会的ジレンマ」とは、私的、短期的な利益と、公共的、長期的な利益が相反する状況を意味します。例えば、どこかへ移動するときに車を使えば楽だけれど、みんながそうすると渋滞が起こって環境にも悪いというような問題を、どのように解消するかという研究です。

研究は、仮説を立てて、それを検証するという手順で進めます。社会実験では、歩道が存在せず、道路を人と車でシェアしている道と、ポールで歩車分離している道とを比較。前者の方が、ドライバーが危険や不安要素に敏感になって、自発的に速度を落としたり、歩行者とのアイコンタクトや会釈も増えるという仮説を、車の走行速度や歩行者数、歩行者へのヒアリング調査をもとに検証しています。得られた結果を、いかに実社会へ導入できるかが重要。社会を良くするために何ができるかを考えるのが、私の研究だと思います。



仮説を立てるために昨今の人々の考え方を文献から読み取り、実際の調査で検証することが多い。例えば、何が人の投票行動に影響を与えているかを調べるために、群衆心理の本を読んだりする。



二人が提唱した「社会疫学」は
 社会科学の視点と手法を疫学に組み入れた、
 京都大学発の新しい公衆衛生研究のあり方。
 この方法を用いて、日本のみならず
 多くの発展途上国でエイズをはじめとした
 グローバルヘルス問題に取り組んでおられます。

日本のお父さん、お母さんの存在



—お互いの尊敬しているところは？

正博●僕は大きなプロジェクトを計画し、立ち上げるのが好きなのですが、細かい部分の詰めが甘い。その点、彼女はきちんとデータを積み上げて、緻密で、徹底しています。そういうところは、まねできません。

雅子●私は、細部に至るまで徹底に徹底を尽くすことで、マーケティング手法を使って、クリエイティブなことをするのは得意なのですが、彼のように大きな視野で研究を見て、5年、10年先のビジョンまで立てて研究計画を考案する才能はありません。だから、ちょうど補い合っているのかもしれない。

正博●彼女は、学生の面倒も細やかに見てくれるので、その点もすごく助けられています。僕は学生に厳しいタイプなので、そのフォローを彼女がしてくれる。ここも役割分担（笑）。

雅子●留学生にとっては、“日本のお父さん、お母さん”のような感じ。ダメなことはダメだと彼にガツンと言われた学生が、泣きながら私のところへ来る。私は「大丈夫。彼はあなたそのものを否定しているわけではないから」と慰めて、ついでにカウンセリングなんかもして（笑）。



—今後の目標を教えてください。

正博●発展途上国は、食生活の欧米化により病気の傾向が変わり、生活習慣病の割合が増えています。ですので、糖尿病や高血圧なども扱いたい。また、「健康」をキーワードに、医学、農学、工学、文化人類学、地球環境学の垣根を取り払い、各分野の知恵を集めた、新しいプロジェクトを立ち上げたいです。

雅子●私は今の研究や活動を、これからもずっと続けていくつもりです。社会疫学とマーケティングの手法を用いて、今の青少年が置かれている社会的状況に適合した教育資料を作り、一般の人々に還元していきたい。日本にも苦しんでいる子どもたちが山ほどいますので、プロの研究者として、そこに光を当てる活動をしていきたいと思っています。



木原正博●医学研究科 教授

京都大学卒業。循環器疾患や発がん素因の研究後、厚生労働省に勤務。20年以上にわたりエイズに関連した行動学的、予防学的研究に携わる。その後、疫学に社会科学の視点と方法論を統合した「社会疫学」を提唱。国際的な研究活動を展開している。

木原雅子●医学研究科 准教授

長崎大学卒業。循環器疾患や発がん素因の研究に従事した後、エイズ疫学研究に参加。行動疫学、社会疫学的見地から予防研究を担当。国連合同エイズ計画共同センター長。若者の健康・福利向上のため自ら設立した（財）日本子ども財団の理事長も務める。

ふたり
wa
研究者

社会疫学の研究を国内と海外で

—二人は同じテーマで研究を？

正博●社会疫学（socio-epidemiology）という方法論を用いている点では同じですが、僕は国際的な研究に重点を置いています。例えば、イランでエイズが流行したとき、薬物注射の使用者たちの行動調査をして、感染の社会的原因を明らかにしました。また、コンゴ民主共和国では、エイズ治療のための服薬指示が守られにくい原因が、現地の食料不足にあることを突き止めました。今、研究室の学生の8割は海外からの留学生です。彼らが自国に役立つテーマを研究し、知識とスキルを自国に持ち帰れるよう指導しています。

雅子●私は、国内の若者が直面している社会的問題を調べ、マーケティング手法を取り入れた効果的な教育・指導法の開発に取り組んでいます。現実社会で実用できる、しっかりとしたプログラムを構築できれば、留学生も学んで自国へ持ち帰ることができます。

—二人で研究しているメリットは？

正博●阿吽の呼吸もありますし、自宅に帰っても研究の話ができるので、何事も早く意思決定できるのがメリットです。それに、いろいろなことを安心して相談できます。

雅子●一緒に仕事をしていると、お互いが何に関してどう苦しんでいるかがわかるので、助け合えるところです。また、すごく良い結果が出たとき、喜びが3、4倍になりますよ。

医学研究科 教授

木原正博

医学研究科 准教授

木原雅子





二人は、精子を作り出す源となる精子幹細胞の研究に取り組んでいます。これまでに、マウスの精巣から採取した精子幹細胞を試験管内で増やす長期培養系を確立したほか、新しい遺伝子改変動物作成法の開発などを行ってきました。

研究もプライベートも二人で乗り越えて



—お互いの尊敬しているところは？

隆司●彼女は非凡な集中力の持ち主で、周囲の音が聞こえなくなるタイプ。そこがすごいと思います。

美都●でも、たぶん私一人では、ここまで研究を継続できなかったでしょうね。主人の研究に対する情熱はすごい。24時間ずっと研究のことを考えていますから。私が研究を続けられているのは、主人が徐々に新しいアイデアを提示してくるからだと思います。

隆司●それでつい、あれもこれもと彼女を急き立ててしまって…。ですが、ケンカはしないですね。論争になっても、たいてい彼女の言うことが正しいですし(苦笑)。

—二人にとっての記念碑的な研究成果は？

隆司●マウスの精巣から採取した精子幹細胞を試験管内で増やすことができた成果です。そのときは研究も一番忙しかったし、ちょうど子どもが生まれたばかりで、プライベートでも大変なときでした。そうした目まぐるしい時期を、お互いに作業や時間を融通し合って乗り切れたことも、大きな思い出になっています。

美都●大学院生のとき、「出産や育児は研究に支障をきたす」とアドバイスされ、私なりに悩みもしました。それで、子どもを持つにあたって、いろいろ対策を考えただけど、結局それらは役に立たず、その場その場で局面を乗り切った感じ。案外ちょっとしたことで、道は開けるものです。

ふたり
wa
研究者

留学先で今の研究テーマに出会う

—今の研究テーマを選ばれたきっかけは？

隆司●アメリカのペンシルベニア大学におられるプリンスター博士が、精子幹細胞の移植法を開発されたのがきっかけです。それまでは免疫学を学んでいたのですが、プリンスター博士のもとへ留学し、生殖細胞の研究に転向しました。その理由は、生殖細胞が生体の遺伝という重要な現象を担う細胞であるにも関わらず、実体あまりよく解明されていなかったこと。それに研究者人口が少ないという点で、「未来がある、おもしろそうだ」と感じたからです。

美都●私はもともと生殖工学に興味があり、初めは卵子の研究をしていました。主人とは学部が違いますが、私もペンシルベニア大学に留学していて、シュルツ博士のもとで卵の受精や初期発生の研究に携わりました。ですが、歴史の長い卵の研究領域に限界を感じ、帰国後、オスの生殖細胞の研究に転向しました。

—二人で研究しているメリットは？

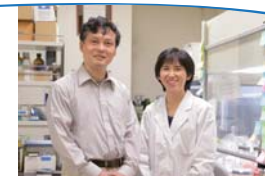
隆司●言いたいことが言い合えて、コミュニケーションがとりやすい点ですね。

美都●突っ込んだ議論もしやすいので、研究の効率という面で、かなり恵まれていると思います。自宅の食卓で研究の話をするこも、日常的によくあります。

—今後の目標を教えてください

隆司●生殖細胞のすべての機能を、試験管内で再現することです。

美都●基本的には私も同じ。試験管内で精巣をもう一度作ることが目標です。もともと試験管内で何かを操作することが好きだったので、その点でも、主人と興味が一致していると思います。

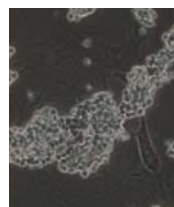


医学研究科
助教

篠原美都

医学研究科
教授

篠原隆司



精子幹細胞の培養細胞(GS細胞)

篠原隆司●医学研究科 教授

京都大学医学部で免疫学を学ぶ。卒業後、米国ペンシルベニア大学に留学し、精子幹細胞の移植・増殖法を研究。帰国後、医学研究科助手、先端領域融合医学研究機構特任助教を経て、医学研究科教授。

篠原美都●医学研究科 助教

京都大学医学部で発生学を学ぶ。卒業後、米国ペンシルベニア大学に留学し、卵の受精や初期発生の研究。帰国後、医学研究科研究員、先端領域融合医学研究機構特任助手を経て、医学研究科助教。

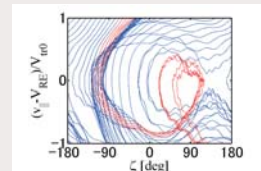
研究女子 特別座談会



「やってみたい」と思ったことを、とりあえず始めてみるのが大事。うまくいかなかったら気持ちを切り替えて、他に輝いているものを探せばいい。

夢は必ずかなう！遠回りするのは、悪いことではないと思います。選択肢は一つじゃなく、いっぱいあるよ。

高校で教わる勉強法は、ずっと役に立ちます。将来、自分が興味を持った学問で生かせるスキルを身につける練習だと思って取り組んでください。



久保田 結子
現在の研究テーマは、地球を取り囲む放射線帯の発生と消滅。特に消滅についてコンピュータシミュレーションを用いて研究中。消滅の過程を解明し、宇宙機器や宇宙飛行士のプラズマによる被害軽減に繋がりたいと考えている。



四井 早紀
卒業論文のテーマは「東日本震災における人的被害発生メカニズムの解析」。修士課程1年目に英国ケンブリッジの会社のインターンシップ研修を受講し、世界の災害のデータベース化プロジェクトに携わった。現在は地震災害リスクを研究。



野澤 真樹
江戸時代の文学、特に浮世草子を研究。江戸時代の人たちの学んでいた教訓や古典の知識が、当時の文学にどのように表れているかを読み解く。現在は江戸時代中期の人物、上田秋成の作品を扱う。

なかも大切ね！



知りたい、続けたいという想いから進学。 夢は世界へ、宇宙へ、未来へと繋ぐこと

研究者への道を選んだのは？

四井◆中学生のときに福岡県西方沖地震を体験したことで、災害研究に興味を持ちました。学部生のときに東日本大震災が起こり、ボランティア活動で仮設住宅を訪問。被災者の気持ちをきちんと聞いた上で、避難計画を立てなければいけないと思ったのがきっかけでした。

久保田◆修士課程に進学してから、地球周辺の放射線帯の発生と消滅について研究を始めました。1年続けていると、放射線帯プラズマがどのように動いているかがだんだんわかってきて、研究が本当におもしろくなってきたんです。ここで研究を終わらせたらもったいないと思って、博士課程への進学を決めました。

ここまで研究を続けてきて、論文も書いてきたのだから、私が成果として世に出したいと思っています。

野澤◆高校生のときに読んだ江戸時代の草双紙（子ども向けの絵解き本）がきっかけで、く

ずし字に興味を持ちました。修士課程に進み、江戸時代の文学を調べ始めると、一生かけても読み切れないほどの多くの資料が残っていることがわかったので、さらに研究したいと思い、博士課程に進みました。

研究をして、感動したりうれしかったことは？

四井◆ボランティア活動や現地調査で地元の人と話をしたり、研究を通して多くの人たちと出会えることがうれしいです。

久保田◆学会で発表したとき、私の研究に興味を持ってくれた外国人研究者が、「あなたの論文を早く読みたい」と言ってくれたとき。すごくうれしくて、研究が楽しいだけでなく、やりがいを感じました。



野澤◆いろんな作品の中に隠された共通点や関連性が、少しずつ見つかってくるのが本当にももしろい。例えば、源氏物語をパロディ化した作品は多く存在しますが、中には源氏物語そのものではなく、源氏物語の注釈書の説明部分を取り入れていることがあります。そんな繋がりを見つけたとき、ワクワクします。

今後やりたいこと、夢を教えてください

四井◆日本は災害研究が進んでいるので、その情報を海外にも発信できる、グローバルな研究者になりたいです。誰かの命を救えるような災害計画を立てるのが、最大の目的です。

久保田◆私の研究はコンピューター上でのシミュレーションによる自然現象予測なので、性能を良くしたり、理論式を駆使して、今ある機材で最大限に宇宙の仕組みの一部を解明すること



が直近のゴールかな。将来的には、対象が何であろうと、シミュレーションは「私にまかせて！」と言えるようになりたいです。

野澤◆アルファベットは昔も今も同じ文字が使われているので、現代人も古い文書を読めますが、日本では、仮名は明治時代に現在の平仮名に変わったため、江戸時代の仮名を読める人がわずかしきません。ですので、より多くの資料に触れ、正しく理解する力を身につけるとともに、他の人にもそのおもしろさを伝えられるような研究者になれたらと思っています。



とつけき
インタビュー

京都大学キャンパスの学生に聞きました！
「ひとことで京都大学の魅力をお願いします！」



頑張っている人や、
科学に詳しい人に出
会おうと、「おお、すご
いな」「そんな考え
方ができるんだ」と
思う 理学部4年生



やりたいことを見つ
けている人が多い。
良い意味で、先生は
見守っている。変人
が多く、人間多様性
博物館みたい
医学部4年生



勉強しようと思えば
できるし、部活に打
ち込むのも良い。留
学制度も整っている
し、一般教養も幅広
く選べる
経済学部2年生



アメリカ大使館主催
の女性のリーダー
シッププログラムに
参加。自分から行く
と開けてくる。チャン
スがあふれている
経済学部2年生



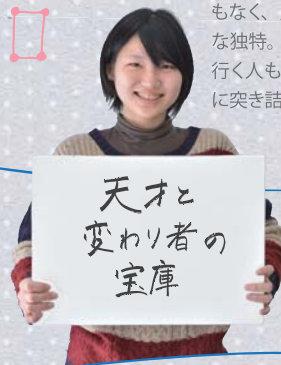
他学部の授業も受け
られ、気になる先生
に直接アクセスしたり、
好き放題に勉強
できる。利用の仕方
は人それぞれ
総合人間学部4年生



授業行き放題、行かない
放題。バイトもし放題。勉
強、研究し放題。遊び放題。
一日中予定満載、家に帰っ
たら寝るだけ
工学部4年生

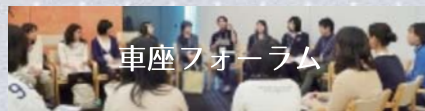


少数派が排除されること
もなく、良い意味でみん
な独特。あえて別の道を行
く人もいるし、専門的
に突き詰めていく人も
工学部4年生



おもしろい先生や授
業が多い。少人数制
の「ポケゼミ」では、
文系でも理系のゼミ
を受けたりできて、
興味が広がる
文学部1年生

EVENT & INFOMATION



車座フォーラム

女性にとっての「研究者という職業」について知ることができ、女子高校生向けのイベントです。京都大学の教育体制や学生支援、学生生活なども、教員や学生スタッフから直接、話を聞くことができます。12月に開催予定。対象：女子高校生 費用：無料



出前授業

京都大学の大学院生や博士研究員が高校を訪問し、研究活動、大学の歴史、教育研究施設の紹介など、いろいろなテーマで授業をします。高校で学ぶことの大切さ、進路に対する考え方などについても聞くことができます。対象：高校生 費用：希望する高校の費用負担なし



オwsenキャンパス

京都大学を志望している高校生を対象に、キャンパスツアーや各学部説明会、模擬授業、大学生による公開座談会などのイベントが開催されます。京都大学の理念や学風を、肌で感じられる絶好の機会です。夏休みに開催予定。対象：京都大学受験予定者（高校生）費用：無料

ジョン万プログラム



「ジョン万プログラム」のうちの「学生派遣プログラム」は、世界トップレベルの大学などへの留学や学寮生活などを通じて、京都大学の学生が世界で活躍できるグローバル人に育つよう、大学が授業料・滞在費・渡航費を支援するプログラムです。

京都大学優秀女性研究者賞

たちはな賞

人文・社会科学、自然科学の分野で優れた研究成果を上げた京都大学の若手女性研究者ならびに博士課程学生を、大学として讃える制度です。